

回転放電式発生体採用

オゾン脱臭装置 YS2000-OZF(S)-T2

(汚水槽建屋施設などの脱臭方法)

オゾン濃度を
自動制御

だから**安全**

発生体の
耐久性
がバツグン

最強の
脱臭力

発生量 2g/h



安全に除菌・脱臭できる

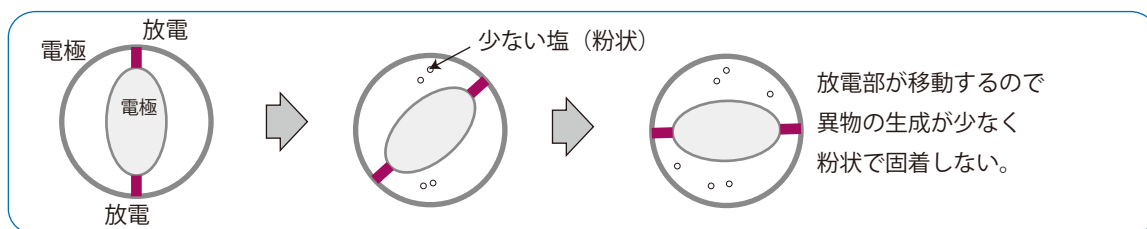
濃度管理機能付きオゾン発生装置

発生体の耐久性UP!! (回転電極特許取得済み)
オゾン発生体が汚れない濃度計付きプラズマオゾン発生器



YSくりん YS2000-OZF(S)-T2

■ 回転放電式発生体とは・・・オゾン発生時に出来る異物の生成を極力抑える発生体です。



オゾン脱臭装置 YS2000 シリーズは、汚水を浄化槽に送るための前処理施設や下水に送るための調整施設が放つ悪臭を脱臭するために開発した機器です。
これらの施設内は、絶えず硫黄系・アンモニア系ガスが充満するような劣悪な環境にあります。
このような環境下でも、本機は回転放電式発生体の採用により原則 1 年に一度のメンテナンスで 24 時間 365 日の悪臭対策に貢献します。

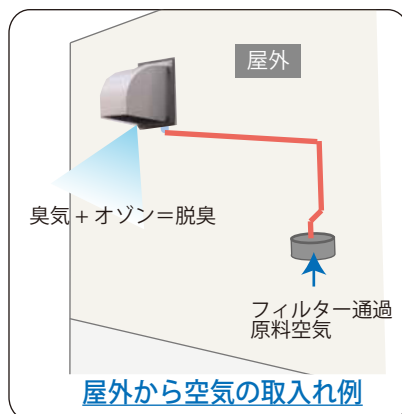
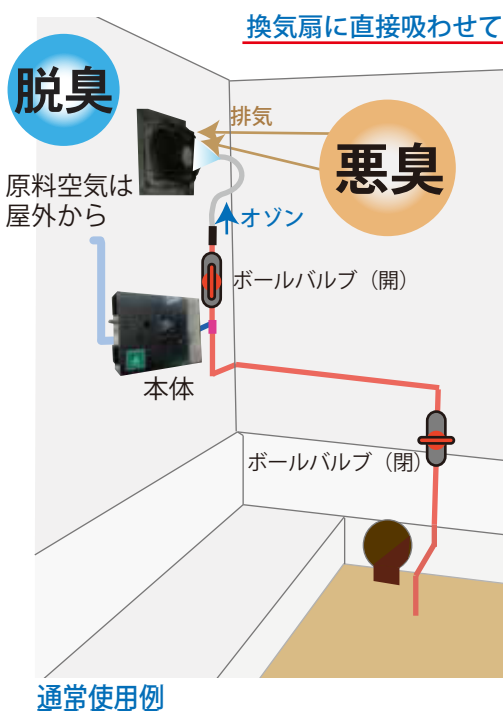
2つの悪臭対策

これら施設の悪臭対策としては、まず①近隣周辺に対する悪臭対策が必要となります。また次に必要となるのは、②施設内に入出入りする職員の方々の健康対策です。施設内では硫化水素濃度やアンモニア濃度が基準値を大きく上回っている可能性もあります。

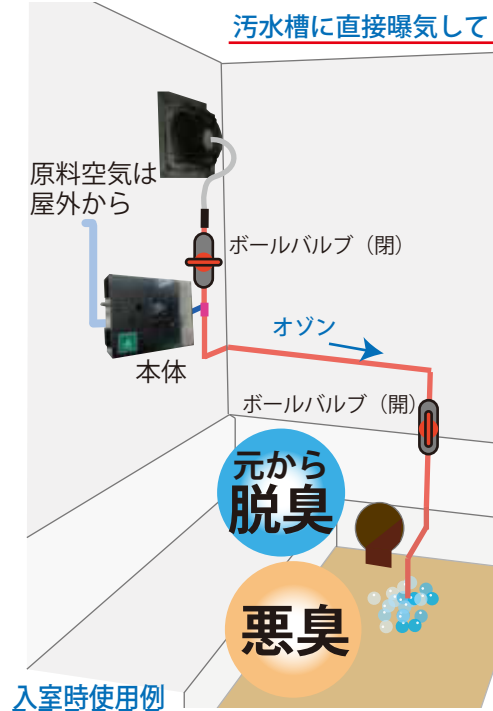
本機は、設置方法とオゾンガスの配管方法により①近隣周辺対策 ②悪臭を元から断つ対策 のどちらにも対応出来ます。

※ 悪臭の程度や悪臭元の総量により本機の増設が必要になる場合があります。

YS2000-OZF(S)-T2 の（最新）配管使用例



（参考図）



前処理施設からその周辺に放たれる悪臭対策は必須の課題です。加えて前処理施設内の環境は、悪臭の程度から鑑みて硫化水素濃度等の数値が基準値を超えている可能性も考えられます。このような場合、作業員の方の健康保全対策も必須となります。

この対策として、オゾン脱臭機 YS2000-OZF(S)-T2 のオゾンガス取り出し口の配管を上図（参考図参照）の様に行っていただくと 通常はオゾンガスを換気扇に直接吸わせて（上図左）周辺への悪臭対策を行い、水質検査等で作業員の方が入室される際はボールバルブを切り替えてオゾンガスを汚水層内に直接曝気する（上図右）ことにより、前処理施設内の硫化水素濃度を低減して健康保全対策が行えます。

※ ボールバルブの切り替えによる2種類の使用例

- ① 通常時
オゾンガスを換気扇に直接吸わせて ➡ 周辺悪臭対策
- ② 入室時（作業員の方が前処理施設内に立ち入る時）
オゾンガスを汚水層に直接曝気 ➡ 作業員の健康保全

各部の名称



仕様

形式	YS2000-OZF-T	YS2000-OZFS-T
定格電圧	AC100V	
定格周波数	50/60Hz	
消費電力	120W	
オゾン発生量※2	1,000～2,000mg/h	
オゾン濃度運転	ON: 0.08ppm OFF: 0.10ppm（デフォルト） 8/パターンの運転を選べます。0.1-0.08/0.08-0.06/ 0.06-0.04/0.04-0.02/0.02-0.00/0.01-0.00/ 0.20-0.18/0.15-0.13	
その他	- 濃度センサー寿命警報あり・連続運転切替可能 ※1 2段階高性能フィルター（オプション） - 複数台連結運転可能・アナログタイマー運転 - 無段階オゾン濃度調整ボリューム - オゾンガスチューブ取出しタイプ	
周囲温度・湿度	0～40℃、80%以下	
外形寸法	W430 × H350 × 150D	
有効除菌スペース	1200㎡（真夏30℃以下） 天井高2.3m	
重量	30kg	

※1 YS2000-OZF-Tにはオゾン濃度センサ運転機能はありません。
※2 標準空気において（5℃、湿度50%以下、1気圧）